様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３３９１０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ０１１５６

研究課題名（和文）東アジアの「吉地」の研究：伝統的地理思想による地形評価と土地利用

研究課題名（英文）Study on Auspicious Sites in East Asia: Landoform Evaluation and Land Use of Traditional Geographical Thought

研究代表者
渋谷　鎮明（Shibuya, Shizuaki）

中部大学・国際関係学部・教授

研究者番号：６０２５２７４８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、韓国（朝鮮）、沖縄、および台湾を中心とした東アジア各地域において、風水地理思想で理想の地形、「吉地」の特性とその利用、そしてその評価の変化について、比較研究を行った。その結果、第一に風水地理説による「吉地」が、「気脈・龍脈から気が供給され、その気が風で吹き散らされない小盆地」を示す点が理解された。第二に風水地理思想は、「気脈」概念の強弱などで地域ごとに相違があり、「吉地」の様相も異なっている。また第三に、不足した「環境」を補い、象徴的な土地環境の改善を通じた積極的な「吉地づくり」が行われていると言え、今後重要な概念として注目したい。

研究成果の学術的意義や社会的意義
風水地理思想の学術的研究が盛んになった1990年代に、東洋哲学研究者の三浦國雄は、風水を「東アジアの共有財産」と評した。東アジアにおいて共通の風水地理思想があり、各地域で同じような地形や空間が選好されるという事実は、東アジアの地理学者にとって重大な問題であり、学術的・社会的意義は高い。近年韓国では環境保全や林野管理政策において、風水地理思想に関わる環境把握手法が用いられている。近隣諸国におけるこのような動きを理解するためにも研究の意義があるものと思われる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we conducted a comparative study of the characteristics and uses of "auspicious sites," or ideal landforms according to Feng Shui geography, and the changes in the evaluation in various regions of East Asia, mainly in Korea, Okinawa, and Taiwan. As a result, we understood that, first, "auspicious sites" according to Feng Shui geography refer to "small basins where energy is supplied from energy veins and dragon veins, and where that energy is not blown away by the wind." Secondly, Feng Shui geography differs from region to region in terms of the strength of the concept of "energy veins," and the appearance of "auspicious sites" also differs. Thirdly, it can be said that active "auspicious sites" are being created by supplementing insufficient "environments" and improving the symbolic land environment, and this is an important concept.

研究分野：人文地理学

キーワード：伝統的地理思想　風水思想　東アジア　韓国　沖縄　「吉地」　土地利用　環境評価

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

「吉地」は、東アジアの伝統地理思想である風水思想の地形判断において「気」や「脈」などの論理で評価され、墓や王陵、重要な建築物等、象徴的な造営物の立地位置に利用されてきた、ある種の理想地形を指している。この「吉地」は通地域的な共通性を持つので、東アジア各地で同じような地形を選好し利用してきたことになる。このことは、東アジアの文化・歴史地理学的研究において、追究すべき極めて重要な課題と考える。これら「吉地」の学術的な研究は、管見の限り上述の韓国の崔昌祚『韓国の風水思想』（1984 年）等にある「十勝地研究」や「明堂・吉地論」、および『自生風水２―韓国の明堂資料集』（1997 年）が中心であるが、その後やや停滞しており十分ではない。また日本をはじめとした他の地域においても、「吉地」のみに着目した研究は非常に少ない。

一方で、風水思想の論理と運用は、地域ごとに相違点があり、しかも時代的に変化してきたことが理解されつつある。筆者らは、この点に着目し、すでに学術振興会二国間交流事業（韓国との共同研究）「伝統的環境管理知識としての風水の日韓比較調査研究」（平成 28-29 年度、代表者：澁谷鎮明、崔元碩）において研究を始めている。

このような地形の評価基準は、「風水」という語にまとめられることから、すべて同一であると思われがちであるが、実際のところある程度の共通性を持ちながらも、各地域の環境条件や歴史・社会的条件によって相違が生じている。例えば、韓国（朝鮮）や中国における風水思想では、吉地の必須条件である「気」を供給する「脈」（山の連なり）に関して、沖縄（琉球）においてはあまり言及されず、「吉地」の要件がやや異なっている。また、吉地であると説明するための論理も変動することがある。

このように風水思想には地域差があり、中国起源ではあるが、朝鮮、沖縄、台湾などの中国周辺地域においては、地域ごとの事情に合わせて、ある種の取捨選択が行われ、「風水」として共通点を持ちつつもそれぞれ異なった面を見せていることが近年になって次第に理解されつつある。これは、各地域における風水研究が、極めて一国的な視点で行われ、他地域の「風水」にあまり関心がなかったのと同時に、「中国起源なので風水は同一」という思い込みがあったためと思われる。このような学術的背景を踏まえ、本研究は、主として①風水地理説を中心とした東アジアの伝統的地理思想における「吉地」像とはいかなるもので、②それがどのような共通性や地域的相違をもつか、③さらにそのような「吉地」像は現代までにいかに変化してきたのかという三点の問題意識を持っている。

２．研究の目的

以上のような問題意識のもと、本研究では、韓国（朝鮮）、沖縄、および台湾を中心とした東アジア各地域においてこのような「吉地」の特性とその利用、そしてその評価の変化について、比較研究を行うものである。このような研究を通じ、東アジアの「吉地」像とその変化、そして地域ごとの風水地理説の運用や理解に関する共通点と相違点が明らかになるものと考える。

この際に、中国の周辺地域である韓国（朝鮮）、沖縄、台湾を中心とするのは、前述のように、中国由来の風水地理説が、東アジア各地域に受容される際にある種の取捨選択が行われ、相違を生じているという視点から、「吉地」という地形の評価や意味付与の共通点と相違点を探りやすい中国周辺地域の比較研究を構想したためである。またこれらの地域においては、資料調査、現地調査ともに比較的容易であると考える。

この「吉地」は東アジアにおいて通地域的な共通性を持つので、各地で同じような地形を選好し利用してきたことになる。このことは、東アジアの文化・歴史地理学的研究において、追究すべき極めて重要な課題と考える。ただし一方で、風水思想の論理と運用は、地域ごとに相違点があり、しかも時代的に変化してきたことが理解されつつある。

本研究では、このような問題意識を踏まえ、韓国・沖縄・台湾を中心とした東アジア各地域において、「吉地」のありようを検討したした上で、その特性と利用について明らかにすべく、伝統的地理思想による地形条件への評価や意味付与という視点をもって、比較研究を行うものである。

３．研究の方法

本研究においては、まず具体的な「吉地」像について、近代以前から現代にいたる各地域（朝鮮（韓国）、沖縄、台湾）の風水書、風水関係資料、方志・邑志などの地誌類、農書、既往の学術的研究などから風水地理説の論理による「吉地」リストおよびインデックスを作成して、その地形的特徴や風水地理説の論理などから「吉地」の類型化などの整理作業を行う。

次に、この各地域の「吉地」リストより、東アジアの「吉地」像やその様相、地形的特徴や、評価の変化について現地調査を実施するという手順で研究を進める。現在のところ朝鮮半島においては、現在までさまざまな「吉地」評価のある韓国中部の鶏龍山、沖縄においては、沖縄独特の「風水見分記」に吉地評価が示される集落、台湾では伝統的事象が残されやすい客家の居住地域などを想定している。

４．研究成果

本研究課題は、現地での資料収集・調査を予定していたが、折からのコロナ禍のため、実施できない時期が続き、2 年にわたって期間延長をしたものの、台湾での「吉地」研究の一部を十分に行うことがかなわなかった。

（1）「吉地」の基礎研究

まず、風水地理思想をはじめとした東アジアの伝統的地理思想において、いかなる場所が「吉地」とされるのか、各種の文献資料から洗い出す基礎的作業を行った。またこの前段階の作業として、本研究で対象とする韓国、沖縄、台湾の基本的な資料探しと対象地域の状況把握も行った。特に 2018 年 7 月に東京で行った分担者の浦山、協力者の研究打合せでは、風水地理思想以外の「伝統的地理思想」、「吉地」の定義、「非吉地」の存在など根本的な議論を行った。これによって、韓国の風水地理思想における吉地が「気脈・龍脈から気が供給され、その気が風で吹き散らされない尾根上もしくは小盆地」を示し、韓国・朝鮮においては朝鮮王朝初期の国都選定の風水的評価を行なう際に「吉地」の語が示されてきたことが理解された。

これらの議論を踏まえ、代表者の澁谷が 2018 年 10 月に韓国を訪れ、韓国における研究協力者の崔元碩と研究課題について議論するとともに、関連資料の収集を行った。特に崔元碩氏の著書である『山の人文学』（韓国語）等において、すでに「吉地」について触れられているなど、韓国において一定程度の「吉地」研究が進展しつつあることが理解された。2018 年 11 月には、代表者の澁谷と分担者の浦山が、風水地理思想以外の論理による「吉地」「非吉地」概念と目される、長崎県対馬における天道信仰と「シゲ地」について予備的な調査を実施した。

（2）東アジア各地域の「吉地」の様相と相互比較

【韓国】

上記の研究を基に、東アジア各地域の「吉地」の様相と相互比較を行った。2019 年 9 月の日本地理学会秋季大会では、代表者の渋谷が「韓国の「美しい林全国大会」における「村の林」の評価と風水思想の論理」を発表した。また 2019 年 2 月に中国・福州市で行われた国際シンポジウム「Ecological Landscape and Cultural Heritage in Rural Society」において代表者の澁谷と、協力者の鈴木が発表を行った。他方、渋谷が論文「朝鮮時代の地誌と地理書にみる「水口」概念」を発表するとともに、協力者の崔元碩の代表的な韓国語による論文「朝鮮後期嶺南地方士族村の風水言説」を日本語に翻訳発表した。これを通じて、韓国における「吉地」の様相についてさらなる知見が蓄積された。

さらに代表者の澁谷は、分担者の浦山や韓国の研究協力者である崔元碩氏（慶尚大学校慶南文化研究所）の協力のもと、朝鮮半島における「吉地」の条件に欠かすことのできない「脈」の感覚について、現代韓国における評価までをまとめた「韓国における「白頭大幹」の評価と「脈」の論理」を発表した。同様にして崔元碩氏の協力のもと、本研究の基礎となる風水地理思想の地域比較のために、氏が朝鮮の風水論の展開について述べた韓国語論文「韓国風水論はいかに展開したか」を代表者の澁谷が日本語に翻訳し発表した。

【沖縄】

ここまで述べた韓国（朝鮮）における「吉地」の調査研究と対比しながら、次に沖縄における「吉地」についての検討を行った。ただしコロナ禍のため、2020 年 11 月になってようやく、今年度初の研究会を名古屋にて実施するとともに、研究分担者・協力者と研究上の協議を行った。これ以外にもメール連絡による協議も実施した。これらを通じ、沖縄においては、朝鮮半島で受容された風水地理思想と対比すると、地形判断をして良い場所（吉地）を選択する方法に相違があり、特に風水の論理でいう、気の流れる「脈」の表れとして、山々を認識する感覚が沖縄ではやや弱く、またこの点は既往の学術的研究においても十分注目されてこなかったことが理解された。この「脈」の感覚が弱ければ、風水地理思想の論理で「良い場所」を指し示すのは困難になる可能性もある。

代表者の澁谷は、分担者の浦山、韓国の研究協力者である崔元碩氏（慶尚大学校慶南文化研究所）の指摘を参考としながら、このような「脈」の認識に留意しながら、沖縄における風水地理思想に関わる基礎的な文献の読み直しを試み、「首里地理記」「三府龍脈碑碑文」「真喜屋稲嶺風水日記」を検討し、一部そのような山々を「気」の流れる脈ととらえる感覚が一部存在することが確認された。2019 年 6 月には歴史地理学会大会において、他のメンバーと連名で「沖縄の風水思想における気脈概念と山の認識」を発表した。

【台湾】

本研究では、風水地理思想をはじめとした東アジアの伝統的地理思想において、いかなる場所が「吉地」とされるのかについて、台湾における「吉地」の検討も行った。

しかしながらこの調査は、コロナ禍の影響で、2023 年になるまで、現地での調査や文献収集など、十分な研究活動が行えなかった。2022 年度までは、台湾の風水地理思想の様相と既往の研

究について、2007 年頃に澁谷が作成した台湾の風水研究の文献リストを用いるなどして、できる範囲内で検索・収集した。現在までの印象では、いわゆる「漢族文化圏」にあるにもかかわらず、本研究のような「吉地」評価に関するものは少ないように思われた。

また、台湾の場合、①韓国における研究動向に比して「風水」そのものへの関心が薄い。②台湾はいわば漢族文化の新開地であり、風水地理思想の蓄積が少ないと推測されること、③その反面、台湾の事例としては時代的に新しい姿の風水が見られるのではないかという３点が理解された。

これら検討の上で、代表者の渋谷と鈴木はようやく 2024 年 2 月に台北市周辺に赴き、現代台湾における風水「吉地」について現地調査を行った。特に伝統的な移築家屋、道教寺院・仏教寺院、公園、集合住宅についてその風水論理を検討した。その結果、台湾では韓国の風水で重視される山々の尾根に当たる「龍脈」へのこだわりがやや薄いように理解される。このように東アジアの「吉地」評価の相違や変化や留意すべきことが理解された。

(3)「吉地づくり」としての裨補概念

さらに本研究では、ここまでの研究作業に加え、「吉地」に関わる概念として、韓国で主として用いられる「裨補」の検討の必要性が認められた。「裨補」は主に風水地理説の観点で見た地形環境や景観の欠陥を、植林・築山・石碑の造営等を行って改善しようとするものである。これは象徴的な土地環境改善とも言え、韓国の歴史の古い都市や村落にはこれによって独特の景観が形成され、注目されてきた。翻って中国本土・沖縄・台湾など他の東アジア諸地域においても、風水林・風水塔・抱護林・石敢當の造営など「裨補」の表現はないが、同様の象徴的な土地環境改善が盛んに行われてきた。また日本などでも風水の論理は弱いものの、類似の「土地環境改善」は見ることができる。

換言するならば、不足した「環境」を補い、象徴的な土地環境の改善を通じた積極的な「吉地づくり」が行われていると言え、今後重要な概念として「吉地」と関係づけながら再検討したい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計12件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 崔元碩（澁谷鎮明訳）	４．巻 17
２．論文標題 韓国風水論はいかに展開したか（崔元碩著『人間の地理 韓国風水の人文学』pp.19-53）	５．発行年 2022年
３．雑誌名 貿易風	６．最初と最後の頁 90-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鈴木一馨	４．巻 18
２．論文標題 沖縄における境界呪物としてのシーサーの諸相	５．発行年 2022年
３．雑誌名 文化財学雑誌	６．最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鈴木一馨	４．巻 19
２．論文標題 沖縄の自治体史・字誌における風水の記述	５．発行年 2023年
３．雑誌名 文化財学雑誌	６．最初と最後の頁 51-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鎌田誠史、山元貴継、浦山隆一、渋谷鎮明、齊木崇人	４．巻 87-791
２．論文標題 南西諸島・喜界島における村落の地形的立地条件と空間構成の　特徴－第二次世界大戦前後の村落空間の復元を通じて－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本建築学会計画系論文集	６．最初と最後の頁 76-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aija.87.76	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 澁谷鎮明	4．巻 18
2．論文標題 韓国における「白頭大幹」の評価と「脈」の論理	5．発行年 2021年
3．雑誌名 貿易風（中部大学国際関係学部）	6．最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渋谷鎮明	4．巻 15
2．論文標題 朝鮮時代後期の農書に見る卜居・相宅の条件―『増補山林經濟』を中心として―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 貿易風	6．最初と最後の頁 56-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 渋谷鎮明	4．巻 14
2．論文標題 朝鮮時代の地誌と地理書にみる「水口」概念	5．発行年 2019年
3．雑誌名 貿易風	6．最初と最後の頁 63-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 鈴木一馨	4．巻 38
2．論文標題 沖縄の集落と石敢當・村獅子・梵字石	5．発行年 2020年
3．雑誌名 文化（駒澤大学）	6．最初と最後の頁 61-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石井龍太、山本正昭、阿部常樹、久我谷渓太、浦山隆一、鎌田誠史	4．巻 38
2．論文標題 宮古島狩俣集落　土塁調査概報	5．発行年 2018年
3．雑誌名 東南アジア考古学	6．最初と最後の頁 57-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渋谷鎮明	4．巻 21
2．論文標題 古地図と近代地図のはざま―明治期に日本で作製された朝鮮全図とソウル都市図―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 アリーナ	6．最初と最後の頁 153-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渋谷鎮明	4．巻 14
2．論文標題 朝鮮時代の地誌と地理書にみる「水口」概念	5．発行年 2019年
3．雑誌名 貿易風	6．最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 崔元碩（渋谷鎮明・後藤栞訳）	4．巻 1
2．論文標題 朝鮮後期嶺南地方士族村の風水言説	5．発行年 2019年
3．雑誌名 中部大学リベラルアーツ論集	6．最初と最後の頁 73-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

1．発表者名 渋谷鎮明
2．発表標題 京釜鉄道発行「韓国京城全図」に描かれた旧韓末ソウルの景観
3．学会等名 歴史地理学会
4．発表年 2020年

1．発表者名 渋谷鎮明
2．発表標題 朝鮮時代の農書に見る相宅の条件
3．学会等名 歴史地理学会
4．発表年 2019年

1．発表者名 渋谷鎮明
2．発表標題 韓国における「白頭大幹」の評価と「脈」の論理
3．学会等名 日本地理学会
4．発表年 2020年

1．発表者名 山元貴継・鎌田誠史・浦山隆一
2．発表標題 沖縄本島・勝連南風原集落と「モトジマ（ 元島）」
3．学会等名 人文地理学会
4．発表年 2019年

１．発表者名 渋谷鎮明・浦山隆一・崔元碩
２．発表標題 沖縄の風水思想における気脈概念と山認識 ―『真喜屋稲嶺風水日記』の載を中心に ―
３．学会等名 歴史地理学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 渋谷鎮明
２．発表標題 韓国の「美しい林全大会」 における「村の林」の評価と風水思想の論理
３．学会等名 日本地理学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Shibuya Shizuaki
２．発表標題 Fengshui and its Close Resemblance: Symbolic man-made buildings in Mainland Japan
３．学会等名 Symposium： Ecological Landscape and Cultural Heritage in Rural Society（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Suzuki Ikkei
２．発表標題 The farm village without Feng Shui：How was judgment on desirable land in Japan
３．学会等名 Symposium： Ecological Landscape and Cultural Heritage in Rural Society（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計3件

1．著者名 鎌田誠史・山元貴継・浦山隆一編	4．発行年 2019年
2．出版社 風響社	5．総ページ数 381
3．書名 「抱護」と沖縄の村落空間	

1．著者名 矢ケ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編	4．発行年 2020年
2．出版社 朝倉書店	5．総ページ数 174
3．書名 地誌学概論　第2版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	浦山　隆一 (Urayama Takakazu) (10460338)	富山国際大学・現代社会学部・客員教授 (33202)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	鈴木　一馨 (Suzuki Ikkei) (50280657)	鶴見大学・文学部・教授 (32710)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
韓国	慶尚大学校慶南文化研究所			